

**製品名: ACK (リン酸化 Tyr284) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04201**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	120kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TNK2
別名	TNK2; ACK1; Activated CDC42 kinase 1; ACK-1; Tyrosine kinase non-receptor protein 2
遺伝子 ID	10188.0
SwissProt ID	Q07912
免疫原	抗血清は、ヒト ACK1 の Tyr284 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 250-299

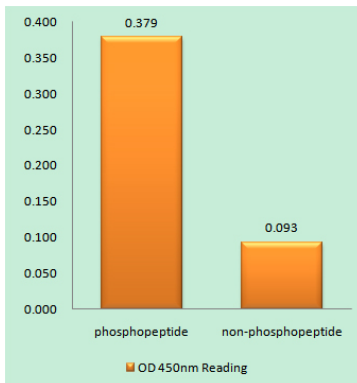
**背景**

この遺伝子は、GTP 結合型の Cdc42Hs に結合し、Cdc42Hs の本来の GTPase 活性および GTPase 活性化タンパク質 (GAP) 刺激に

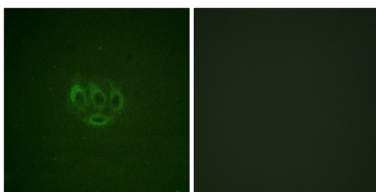
よる GTPase 活性の両方を阻害するチロシンキナーゼをコードしています。この結合は、SH3 ドメインの C 末端に位置する 47 アミノ酸からなる独自の配列によって媒介されます。このタンパク質は、Cdc42Hs の GTP 結合型活性を維持する制御機構に関与している可能性があり、この機構はチロシンリン酸化シグナル伝達経路に直接関連しています。この遺伝子からは、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが同定されていますが、全長が決定されているのは 2 つの転写バリエーションのみです。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。補因子: マグネシウム。酵素調節: SH3 ドメインは自己阻害の役割を果たすと考えられる。機能: CDC42 の下流エフェクターであり、BCAR1 のリン酸化を介して CDC42 依存性細胞遊走を媒介する。ポリユビキチンとモノユビキチンの両方に結合し、EGFR のリガンド誘導性分解を制御する。クラスリンを介したエンドサイトーシスに関与する。成体のシナプス機能と可塑性、および脳の発達の両方に関与している可能性がある。配列に関する注意: ありそうもないアイソフォーム。異常なスプライス部位。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。類似性:1 つの CRIB ドメインを含む。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性:1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット:CDC42 と相互作用する。活性化 CSPG4 と相互作用する。、

## 研究分野

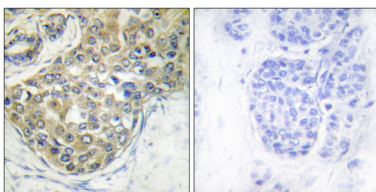
## 画像データ



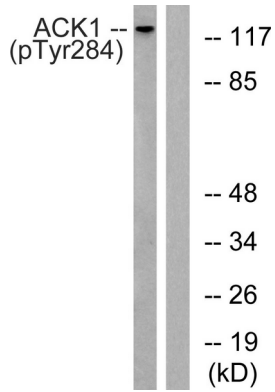
ACK1 (リン酸化 Tyr284) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



ACK1 (リン酸化 Tyr284) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



ACK1 (リン酸化 Tyr284) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30分処理した HepG2 細胞ライセートの ACK1 (リン酸化 Tyr284) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。